

令和２年度進行管理・評価シート
向日市歴史的風致維持向上計画（平成27年2月23日認定）
（最終変更 令和2年5月14日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)	
1 向日市歴史的風致維持向上協議会の開催	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)	
1 景観法、屋外広告物法に基づく連携	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)	
1 史跡長岡宮跡保存活用事業	3
2 竹の径景観保全事業	4
3 桜の径景観保全事業	5
4 歴史文化交流拠点整備事業	6
5 情報案内板設置事業	7
6 長岡京・平安京連携事業	8
7 長岡京広報・PR事業	9
8 向日市文化資料館企画展示実施事業	10
9 歴史資源調査活用事業	11
10 市民歴史活動連携事業	12
11 長岡京を活かしたまちづくり支援事業	13
12 地域歴史ボランティア養成事業	14
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)	
1 文化財調査、指定、保存管理(活用)に関すること	15
2 文化財の修理事業、文化財の周辺環境整備事業、 文化財の防災に関すること	16
3 文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への 助成・支援や連携・協力した取組みに関すること	17
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	19

□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	20
-------------------------------	----

評価軸①-1
組織体制

項目		評価対象年度	令和2年度 現在の状況
向日市歴史的風致維持向上協議会の開催			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	「向日市歴史的風致維持向上協議会」は、事務局と連携し、計画の実施に関する連絡・調整を行う。 本計画の実現に向けて、ふるさと創生推進部企画広報課、建設部都市計画課及び教育部文化財調査事務所が事務局となり、庁内関係各課で組織されている「向日市歴史まちづくり庁内推進会議」において、計画推進のための庁内の連絡・調整を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
学識経験者、地元関係団体、行政(国、府、市)により構成される「向日市歴史的風致維持向上協議会」委員から歴史的風致維持向上に資する事業内容について意見を聴取した。なお、本意見聴取は、新型コロナウイルスによる情勢を鑑み、書面で行うことで法定協議会の開催に替えた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
令和3年2月19日(金) 令和2年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会開催 【内容】 (1)向日市歴史的風致維持向上計画の進行管理・評価について (2)令和3年度実施予定事業の主なものについて			
 令和2年度 第1回向日市歴史的風致維持向上協議会の様子 (WEB会議形式)			

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目		評価対象年度	令和2年度 現在の状況
景観法に基づく連携 屋外広告物法に基づく連携			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	景観計画の策定の中で、景観計画区域を市域全域に位置付け、本市の特徴を「歴史的景観」「自然的景観」「市街地景観」の3つに分類し、それぞれの地域特徴に応じた景観形成に努めることとしている。 このうち特に、向日丘陵の自然景観、向日神社や西国街道沿いの歴史的景観、阪急西向日駅周辺の良好な低層住宅地景観などは本市として守っていき、また、良好な景観を形成していくべき地区であることから、「景観重点地区候補地」に位置付けることを検討している。 なお、景観計画は、この歴史的風致維持向上計画の内容を反映したものとし、歴史的風致の維持向上にも期するものとする。 また、屋外広告物は、景観に対する影響が大きいことから、景観計画の中で、屋外広告物に対する考え方を整理し、向日市らしい屋外広告物の施策を調査・研究することとしている。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
歴史的風致維持向上計画との整合においては、地域特性に応じた規制誘導が必要である。 しかし、地域特性に応じた規制誘導については、地域住民の協力・理解が必要不可欠である。 そのため、地域住民との合意形成を図りながら規制誘導を定める手法として、都市計画法に基づく地区計画制度の活用が重要となる。 昨年度に引き続き、西向日自治会及び西向日の桜並木と景観を保存する会に景観計画を最終目標とした地区計画の策定支援を実施している。 また、市街地開発事業(土地区画整理事業等)による新たなまちづくりに併せ、良好な都市環境の形成を目的に、建築物等の形態・意匠・色彩等及び屋外広告物について都市景観に配慮する事項を含めた地区計画(JR向日町駅周辺地区地区計画)を都市計画決定している。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		歴史的風致維持向上計画と整合を図るためには、地区計画制度の成功事例を1つ1つ積み重ね、各地域に地区計画制度を浸透させ、地域住民が主体となった地域特性に応じた規制誘導が必要となる。本市では、市街地開発事業による新たなまちづくりに付随して良好な都市環境・都市景観を形成するため、洛西口駅東地区などの地区計画を都市計画に定めているが、既存住宅地で地区計画を定めた事例はない。このことから、良好な景観の形成・保全に意欲のある地域の取組を促進するため、引き続き、まちづくり条例に基づく支援を図る必要がある。 また、本市ではJR向日町駅東口開設に関連した周辺整備やJR向日町駅東側の森本東部地区及び阪急洛西口駅西側地区における新たなまちづくりなど、まちの構造が大きく変化する事業が進められていることから、それら主要事業との調整を図る必要も生じている。	
状況を示す写真や資料等			

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和2年度 現在の状況
史跡長岡宮跡保存活用事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和56年度～令和6年度		
支援事業名	文化財保存整備費(歴史活き活き史跡等総合活用整備事業、史跡等購入費国庫補助金等) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金		
計画に記載している内容	長岡宮跡の一体的な保存整備と活用促進を目的に、史跡の拡充・拡大と公有化を図るとともに、目に見えない史跡をより体感できるよう遺跡表示などの整備を行う。整備に際しては、文化庁など関係機関と十分に協議し、調整を図り、地下遺構や史跡景観を損なわないよう実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成27～30年度に整備した史跡長岡宮跡大極殿回廊地区1,712.88㎡を都市公園(教育部文化財担当から建設部公園担当)として移管替えし、隣接する既存の史跡公園等と一体化を図り、一層の史跡等地域の特色ある歴史文化遺産の活用の促進を図ることができた。 また、コロナ禍における非接触型の事業として「AR長岡宮」のAR範囲拡張等事業を実施することにより、「史跡長岡宮跡」への理解を深め、歴史資源を活かしたまちづくりを促進することができた。 ▽ 今回整備地 1,712.88㎡ ▽ 大極殿公園(既存) 3,326㎡ ▽ 北大極殿公園(既存) 574㎡ 計 5,612.88㎡ の一体的な活用 ▼ AR長岡宮の内容充実 長岡宮内裏観光交流センター事業の竣工に合わせ、アプリ可動地等、内容を拡充拡大			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない		引き続き、大極殿跡を含めた史跡長岡宮跡の拡充・拡大と保全整備を実施し、地域の歴史・文化資源や公共施設、交通機関等を連結するネットワーク化を図るなど活用の促進を図る。	
状況を示す写真や資料等			



← 史跡長岡宮跡 大極殿公園



← ↑ AR長岡宮範囲拡張等事業

丘の上の大極殿を可視化

ARの弱点である画像の前後関係を克服

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和2年度 現在の状況
竹の径景観保全事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成12年度～令和6年度		
支援事業名	「もうひとつの京都」ステップアップ推進事業費交付金		
計画に記載している内容	歴史的資源であるタケノコづくりから出る廃材などを利用し、延長約1.8kmに設置された8種類の竹垣の保全改修を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
竹の径に設置されている竹垣の保全改修を行い、周辺環境の保全と回遊性の向上を図ることができた。 整備延長 312.3m			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

(整備前)



(整備後)



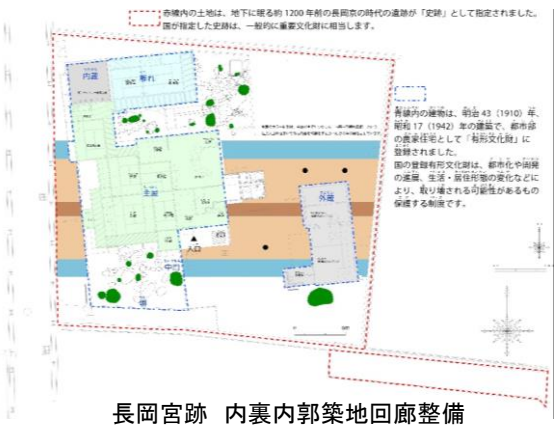
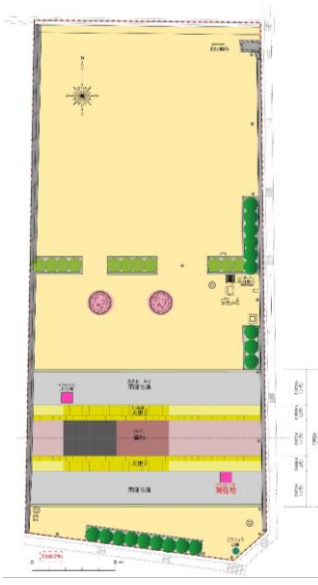
竹垣の改修の様子



評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和2年度 現在の状況
桜の径景観保全事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和40年代～令和6年度		
支援事業名	平成27年度～平成30年度: 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 令和元年度～令和6年度: 市単独事業		
計画に記載している内容	桜の木の成長による根上がりから道路構造物が破損しているため、桜の木の環境にも配慮しながら、安全性の向上、歩車道空間を含めた景観保全のための道路改良や、それらとあわせた樹木の剪定、消毒、古木の伐採や植栽を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
桜並木の剪定や古木の更新を行い、桜の径の景観保全を図ることができた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
(整備前)  ➡ (整備後) 			

評価軸③-4 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	令和2年度												
項目		現在の状況													
歴史文化交流拠点整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手													
事業期間	平成25年度～令和3年度														
支援事業名	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)														
計画に記載している内容	長岡宮跡周辺地区に対し、地域交流活動の拠点としての機能を向上させるとともに、通年の地域交流活動に使用しやすいよう、空調設備の新設、文化財や市民活動による作品を展示するスペース、ギャラリーなどを整備する。														
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で															
<旧上田家住宅保全整備> ・長岡宮内裏観光交流センター(史跡長岡宮跡、国登録有形文化財旧上田家住宅)保全整備工事															
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)													
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		土地を史跡長岡宮跡として整備し、建物を国登録有形文化財旧上田家住宅として整備し活用の促進を図る。このため、史跡の現状変更許可や整備工事を実施した。													
状況を示す写真や資料等															
史跡長岡宮跡(内裏内郭築地回廊地区)及び国登録有形文化財旧上田家住宅  史跡長岡宮跡(内裏外郭築地地区) 長岡宮跡 内裏内郭築地回廊整備計画平面図   長岡宮跡 内裏外郭築地整備計画平面図 <table border="1"><tr><td>工事名</td><td colspan="3">長岡宮内裏観光交流センター(旧上田家住宅、長岡宮跡)整備工事</td></tr><tr><td>工種</td><td></td><td>測点</td><td></td></tr><tr><td colspan="4">主屋 野地板下地桟木施工状況</td></tr></table> 旧上田家整備工事写真				工事名	長岡宮内裏観光交流センター(旧上田家住宅、長岡宮跡)整備工事			工種		測点		主屋 野地板下地桟木施工状況			
工事名	長岡宮内裏観光交流センター(旧上田家住宅、長岡宮跡)整備工事														
工種		測点													
主屋 野地板下地桟木施工状況															

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和2年度 現在の状況
情報案内板設置事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成23 年度～令和6 年度		
支援事業名	令和2年度:「もうひとつの京都」ステップアップ推進事業費交付金		
計画に記載している内容	車で訪来者、公共交通機関を利用する訪来者を歴史的資源の場所へ導くための標識を主要な道路などに設置する。駅前や主要な公共施設などに、歴史・文化資源の位置を示した案内板を設置する。主要な史跡、歴史的建築物や行事などの内容を記した説明板を設置する。 なお、インバウンド対応を必要とする設置箇所においては、英語表記等の情報案内板を設置する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
竹の径に設置している老朽化した案内・解説板を更新した。 更新箇所:12か所			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
(整備前)  ➡ (整備後) 			

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

令和2年度		評価対象年度
現在の状況		項目
☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手		長岡京・平安京連携事業
事業期間 平成26年度～令和6年度		
支援事業名 市単独事業		
計画に記載している内容	長岡京の次に、隣接する京都市に平安京が建都されたことから、共通するそれらの歴史や歴史的風致をキーワードとして、京都市と協働で「竹の径・かぐやのタベ」や歴史巡りウォーキングなど効果的なイベント事業を検討し、実施する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
京都市、長岡京市と協働で、民間事業者と連携したシェアサイクルステーションの整備及びサイクリングツアー「ツール・ド・西山！」を実施することで、市内の歴史・文化資源の回遊性の向上を図るとともに、歴史的風致に対する認知と理解を深めることができた。 イベント参加者数:72人 シェアサイクルステーション設置箇所数:2か所(史跡長岡宮跡朝堂院公園、向日市観光交流センターまちてらすMUKO)		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない		

状況を示す写真や資料等



サイクルステーション整備状況
(史跡長岡宮跡朝堂院公園)



<京都市・向日市・長岡京市協働事業>
令和2年11月28日開催「ツール・ド・西山！」

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和2年度
項目		現在の状況
長岡京広報・PR事業		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	平成27年度～令和6年度	
支援事業名	市単独事業	
計画に記載している内容	長岡京が向日市にあったことを市内外に周知し、認知度を向上するため、長岡宮跡の共通ロゴやPR看板などの作製など、広報PR活動を実施する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
引き続き、公共交通機関を利用した広報や、ロゴマークを活用したグッズ販売を行うとともに、令和2年度は市公式SNS等においてゆるキャラを活用した市のPRを行い、長岡京が向日市にあったことを市内外に周知することができた。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		

状況を示す写真や資料等

【ロゴマーク】



ピンバッジ
(1個300円で販売)



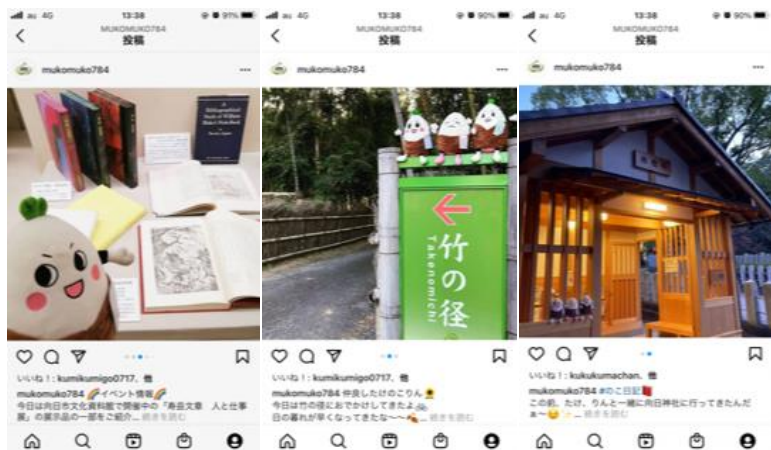
むこうまんじゅう
市内事業者が開発・販売

【公共交通機関を利用した広報】



JR向日町駅看板

【ゆるキャラを活用したPR】



向日市いいとこPR隊及び
Instagramを活用したPR
(文化資料館特別展・竹の径・向日神社)

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

令和2年度	
項目	現在の状況
向日市文化資料館企画展実施事業	☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	昭和59年度～令和6年度
支援事業名	令和2年度:文化芸術創造拠点形成事業
計画に記載している内容	歴史・文化のまちづくりの中核拠点となる文化資料館において、さまざまな時代における歴史・文化の企画展を開催する。
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	
特別展「寿岳文章 人と仕事」(令和3年1月23日から同年3月21日まで開催) 英文学・書物・和紙の研究者であった寿岳文章の業績を紹介した。向日市内に現存する居宅“向日庵(こうじつあん)”で作られた私版である向日庵本の書物や、1930年代後半に寿岳夫妻が全国を行脚して集めた手漉和紙を収集以来初めて一堂に展示するなど、計92件150点余りの資料を展示した。寿岳文章のさまざまな分野にわたる業績を初めて体系的・総合的に紹介することができた。	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

「紙漉村旅日記の世界」
展示状況①「紙漉村旅日記の世界」
展示状況②

英文学・和紙に関する展示



紙漉村旅日記

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

令和2年度	
項目	現在の状況
歴史資源調査活用事業	☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	昭和59年度～令和6年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	本市に点在する歴史・文化資源を活かしたまちづくりや歴史的風致維持向上計画の推進のため、歴史的風致形成建造物などの歴史・文化資源に関連する現地調査や歴史資料の調査整理を行うとともに、調査結果を活用し、歴史講座の開催や今後のまちづくりへの活用検討などを行う。
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	
テーマ展示「くらしのなかの戦争展」(令和2年8月1日から同年9月6日まで開催) 戦争に関するテーマ展示「くらしのなかの戦争展」を開催した。戦後75年にあたる本年は、向日市域の各地区に残された区有文書の中から、近代の軍隊と地域社会との係わりを示す記録を展示した。また、コロナ禍で日々の生活に大きな影響を受けていることに関連して、明治時代以降の公衆衛生、感染症対策等の資料を展示した。日常のくらしのなかにあった軍隊と戦争に関する資料から、平和について考えていただくことができた。＜期間中来館者数 781人＞	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない	
状況を示す写真や資料等	



軍服、演習時の宿泊記録等



公衆衛生関係資料



区有文書として各地区に残された日誌



騎馬の兵隊が町内を通過する様子が記録された昭和8年撮影の映像

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和2年度
項目		現在の状況	
市民歴史活動連携事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成24年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	向日市まつりなど本市で開催されるイベントと連携して行われる歴史・文化の市民活動を支援する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
ボランティアによって復元製作された古代衣裳を展示するとともに、専門家を招いて古代衣裳公開研修を開催し、古代の都・長岡京の歴史と文化を発信することができた。＜公開研修参加者数:27人＞ なお、向日市まつりと連携して毎年実施している「大極殿衣裳行列」はコロナ禍のため中止となったが、ボランティアが復元古代衣裳のメンテナンスを行い、今後も引き続き活用していくことができる環境を整えた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



古代衣裳公開研修
第1部 ボランティア研修会(衣裳メンテナンス等)
令和2年6月30日(日)



古代衣裳公開研修
第2部 講演会「長岡京期の衣裳を復元する」
令和2年6月30日(日)



古代衣裳展示作業



古代衣裳展示状況

評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和2年度
項目		現在の状況
長岡京を活かしたまちづくり支援事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成29年度～令和6年度	
支援事業名	平成29年度～平成30年度: 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 令和元年度～令和6年度: 市単独事業	
計画に記載している内容	重点区域内で、長岡京などの歴史・文化資源を活かしたまちづくりに取り組んでいる団体や歴史・文化資源の維持・保全、活用に取り組んでおられる団体に対して、活動支援を行う。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
豊富な歴史・文化資源を有する市の魅力を市民自らが掘り起こし、そして活用し、市民主体のまちづくり活動につなげるための勉強会「むこうスタイルLABO」の運営を行った。昨年度に引き続き、本市の歴史・文化資源のPRIにつながる企画を参加者自らが考案し、市外のイベントにおいて向日市のPRキャラクター「たけのこりん」と協力して市の魅力を発信した。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		
状況を示す写真や資料等		



「むこうスタイルLABO」
イベントの企画・準備に向けて



阪急洛西口駅高架下TauTで開催された
イベントへの出展の様子
令和2年9月12日(土)

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和2年度 現在の状況
地域歴史ボランティア養成事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成29年度～令和6年度		
支援事業名	平成29年度～平成30年度:社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 令和元年度～令和6年度:市単独事業		
計画に記載している内容	ボランティアとして、本市に多数存在する歴史・文化資源を説明案内する活動をしている団体に対し、さらなるボランティアの養成などを行うため、必要な支援を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
観光を通じたまちづくりを担う人材の育成プログラム「むこう観光スタートアップ講座」を開講した。2年次目となる今年度は、令和2年11月にオープンした向日市観光交流センターを拠点に、ガイドコース・マネジメントコースのそれぞれで受講者らによるガイドツアーや事業の企画立案などを行い、本市の歴史・文化資源の案内やPRに取り組んだ。＜受講者数:15人＞			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 ＜マネジメントコース＞ 令和2年9月5日(土) 企画立案に向けて  ＜ガイドコース＞ 令和2年11月21日(土) ガイドツアーの様子  ＜ガイドコース＞ 令和2年12月12日(土) ガイドツアーチラシ			

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和2年度 現在の状況
文化財調査、指定、保存管理(活用)に関すること		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 重点区域内に存在する指定等文化財について、文化財の周辺環境も含めて保存活用の検討を行い、文化財指定の有無を問わず、文化財を市民の遺産として守り育てるという市民意識の醸成を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

(1) 平成31/令和元年度に貴重な歴史・文化遺産である史跡長岡宮跡の価値を確認し、その価値を維持し、次世代へと確実に継承していくことを目的とし、保存・管理・活用を行うための指針として、「史跡長岡宮跡保存活用計画」を策定した。本年度は、文化財保護法に基づき本活用計画の認定を国に申請した。

(2) 本市の歴史・文化遺産全体の保存・管理・活用を行うための指針として「向日市文化財保存活用地域計画(仮称)」の策定について準備を進めた。

(3) 史跡乙訓古墳群の保存・管理・活用を行うための指針として「史跡乙訓古墳群保存活用計画(仮称)」の策定について、史跡が所在する乙訓2市1町文化財担当課で協議を開始した。

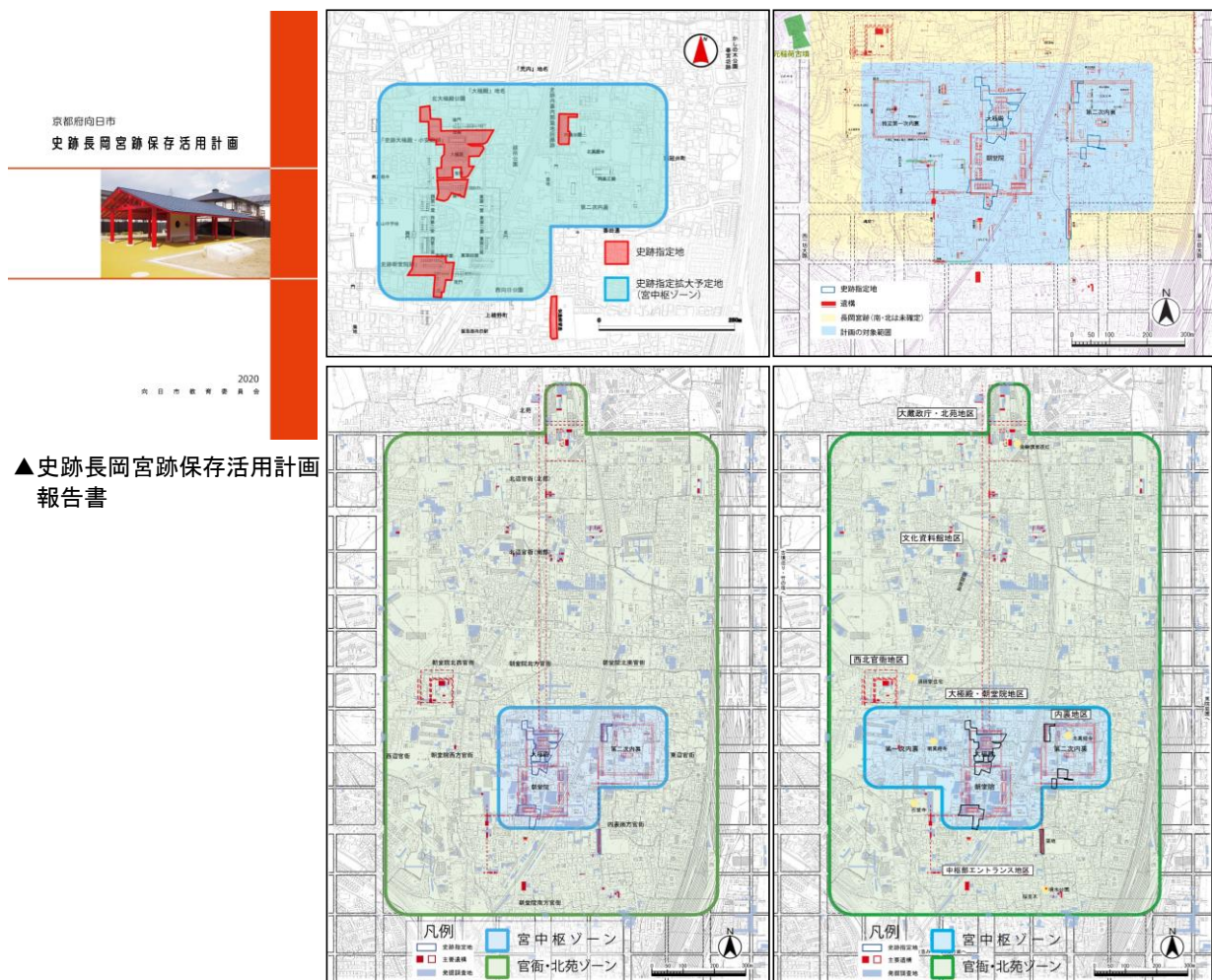
進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

引き続き、文化財を適切に保護し活用の促進を通じ、地域振興・観光振興に努め、魅力あるまちづくりに寄与する。

状況を示す写真や資料等



▲史跡長岡宮跡保存活用計画
報告書

▲改訂前 史跡長岡宮跡保存活用計画対象範囲図 ▲改訂後

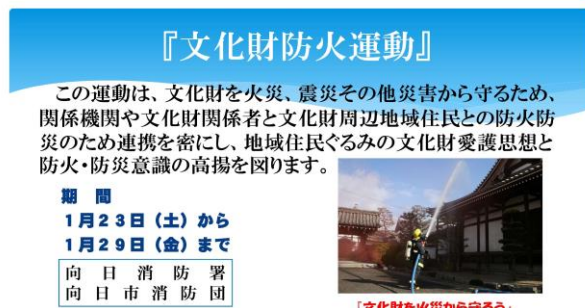
評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和2年度
項目		現在の状況	
文化財の修理事業、文化財の周辺環境整備事業、文化財の防災に関すること		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	文化財は、火災や事故、盗難などにより消滅や毀損すれば、再び回復することが不可能になることがある。文化財の保存修理(整備)が必要な場合は、文化財の価値を損なうことなく損傷箇所などの修理を行う必要がある。文化財の所有者・管理者は、文化財の保存修理について深く認識し、施設の維持管理と修繕、周辺環境の整備、日常の保守点検の強化、関係機関との密接な連絡等を徹底し事故等の根絶を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(1)文化財の修理事業 重要文化財向日神社本殿ほか自動火災報知器等点検補助 京都府指定文化財南真経寺開山堂・本堂自動火災報知器等点検補助 京都府指定文化財須田家住宅自動火災報知器等点検補助 向日市指定文化財明治6年鶏冠井村古地図保存修理 (2)文化財の周辺環境整備 (3)文化財の防災(防火・防犯等) ①文化財消防訓練 ※新型コロナウイルス感染防止のため中止 ②文化財立入検査 ※新型コロナウイルス感染防止のため中止 ③文化財防災設備保安点検補助 ※新型コロナウイルス感染防止のため中止 ④文化財・防火点検周知 向日神社、南真経寺、北真経寺ほか市内一円 ⑤その他 ●令和2年12月25日 市内指定等文化財の所有者管理者に年末年始の「文化財等の防火防犯の徹底について」を送付 ●令和3年1月13日 文化財防火ポスターを市内の国・府指定等文化財文化財所有者らに送付 ●令和3年1月13日 市内指定等文化財の所有者管理者に「第65回文化財防火デーの開催について」案内			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	引き続き、各種の文化財調査の修理事業、環境整備、防火防犯等の保存措置を講じる。		
状況を示す写真や資料等			



啓発看板(文化財調査事務所前)



啓発サイネージ画像(市役所本館)

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		令和2年度
項目		現在の状況
文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への助成・支援や連携・協力した取組に関すること		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化資料館等の施設を有効に活用し、企画の充実を図るとともに、関係施設の連携を深め、文化財の資料収集や調査研究を推進するとともに、施設機能の充実と公開活用を行い、一体的な情報発信に取り組むこととする。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
1 文化財の普及啓発の取組(展示、講座、講演会、教室等) (1)文化資料館常設展示「長岡京の歴史と文化」年間入館者数 8,214人 (2)史跡長岡宮跡朝堂院公園史跡案内 年間見学者数 4,560人 (3)市民考古学講座(3回)・関連講演会(1回開催) 講座参加者数 103人・講演会参加者数 40人 (4)埋蔵文化財調査成果展示会「乙訓古墳群出現前夜-五塚原古墳誕生への道-」(R2.10.3~11.29) 期間中入館者1,920人 (5)埋蔵文化財調査成果展示会関係講演会「前方後円墳出現前夜の列島社会」(R2.11.7) 参加者数 40人 (6)AR長岡宮の活用 ダウンロード数 379回(累計11,959回) 貸出タブレット利用者 249人(累計5,183人) (7)墳タビ! 物集女車塚古墳の活用 ダウンロード数 214回(累計4,786回) (8)史跡長岡宮跡復元体感具「ふわふわ! 朝堂in」の活用 体験者数 51人 (9)文化資料館特別展「寿岳文章 人と仕事」(R3.1.23~R3.3.21) 期間中入館者数 2,066人 (10)文化資料館特別展 記念講演会Ⅰ「寿岳文章の軌跡-新資料を中心に-」(R3.3.21 講師:甲南大学名誉教授) 参加者数 53人 記念講演会Ⅱ「寿岳文章と向日庵本の時代」(R3.3.21 講師:京都大学人文科学研究所教授) 参加者数 54人 ワークショップ「紙漉き体験-植物が紙になる-」(R3.3.14 講師:NPO法人向日庵正会員) 参加者数 16人 (11)文化資料館テーマ展示 「木村吉太郎油彩展」(R2.5.19~R2.7.19) 期間中入館者数 1,096人 「くらしのなかの戦争展」(R2.8.1~R2.9.6) 期間中入館者数 781人 「くらしの道具展」(R2.12.8~R2.12.20) 期間中入館者数 804人 (12)夏休み親子歴史教室 「つくって学ぶ、さわって感じる 和紙文化と向日庵」(R2.8.6・7 講師:NPO法人向日庵理事、正会員) 参加者数 15人 (13)日曜談話会 「乙訓の石造物と川勝政太郎」(R2.6.7) 参加者数 15人 「くらしのなかの戦争展」展示解説会(R2.8.30) 参加者数 20人 (14)歴史文化交流センター活用事業 「なんとなくが面白い ぶら〜り向日市」 (R3.3.20 講師:京都大学人文科学研究所教授、京都大学大学院工学研究科教授) 参加者数 16人 2 民間団体への助成・支援 (1)国登録文化財中小路家住宅 文化活動補助 40,000円 (2)大極殿遺跡保存協賛会 文化活動補助 40,000円 (3)森本遺跡保存会 文化活動補助 19,000円 (4)物集女城を考える会 文化活動補助 19,000円 (5)府指定文化財 鶏冠井題目踊保存会 後継者育成補助 35,000円 3 民間団体との連携・協力 (1)市民団体行事及び向日市まつりでの埋蔵文化財出土遺物展示 新型コロナウイルス感染防止のため中止		
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		

1 文化財の普及啓発の取組



(1)文化資料館常設展示「長岡京の歴史と文化」(通年)



(2)史跡長岡宮跡 朝堂院公園史跡案内(通年)



(3)市民考古学講座
(令和2年10月10日)



(3)市民考古学講座
(令和2年11月21日)



(4)埋蔵文化財調査成果展示会
(令和2年10月3日～11月29日)



(5)埋蔵文化財調査成果展示会
関係講演会(令和2年11月7日)



(6)AR長岡宮の活用



(7)墳タビ！物集女車塚古墳



(8)史跡長岡宮跡復元体感具
「ふわふわ！朝堂in」



(11)文化資料館テーマ展示
「木村吉太郎油彩展」
(令和2年5月19日～7月19日)



(12)夏休み親子歴史教室「つ
くって学ぶ、さわって感じる 和
紙文化と向日庵」(令和2年8
月6・7日)



(13)日曜談話会「くらしのなか
の戦争展」展示解説
(令和2年8月30日)



(14)「なんとなくが面白いぶ
ら〜り向日市」
(令和3年3月20日)

進捗評価シート		(様式1-5)
評価軸⑤-1		
効果・影響等に関する報道		
評価対象年度		
令和2年度		
報道等タイトル	年月日	掲載紙等
向日市の養成講座で学んだ市民「観光ガイド団体」設立	R2.4.10	京都新聞
昔懐かし乙訓 油彩並ぶ 向日市文化資料館 木村吉太郎さんの寄贈作品展	R2.6.13	京都新聞
向日発祥のコシヒカリ起源「旭米」第6向陽小 農家らの指導受け田植え	R2.6.13	京都新聞
古代衣装 50年超単位で変遷 研究家、向日で講演	R2.6.29	京都新聞
巨大古墳 定義など解説 向日市埋文センターで講座始まる	R2.9.20	京都新聞
物集女宗入 顕彰の機運 法要や資料発見、企画展も	R2.9.25	京都新聞
弥生―古墳時代 乙訓の動向解説 向日で企画展	R2.10.4	京都新聞
向日市観光拠点「まちてらすMUKO」オープン 地元食材求めにぎわう	R2.11.15	京都新聞
向日で「くらしの道具展」 明治～昭和の85点並ぶ	R2.12.12	京都新聞
マナー守り 炎に息災願う 乙訓各地で小正月の「とんど」	R3.1.16	京都新聞
寿岳文章氏の足跡をたどる 市文化資料館 書物や日記初公開	R3.1.24	京都新聞
向日の市民団体、「竹棧敷」整備 竹林で子どもら合気道	R3.2.25	京都新聞
長岡宮 顕彰碑を設置 向日・西方の宮殿跡 古代学協会が除幕	R3.3.1	京都新聞
西国街道一帯 23団体が展示 今年は窓辺でひな澄まし顔	R3.3.3	京都新聞
領域なき学びの探求心 文学・美術・工芸…寿岳文章の特別展	R3.3.5	日本経済新聞
向日で築いた「知の世界」 市資料館で寿岳文章回顧展	R3.3.8	毎日新聞
寿岳文章の学問に迫る 向日 開催の特別展で記念講演	R3.3.22	京都新聞
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
新型コロナウイルスの影響によりイベントなどは中止が相次いだが、感染症対策を講じながら可能な範囲で事業を実施することで、本市の歴史・文化資源に対する理解を深めることができた。また、歴史・文化資源を活用したガイドツアーやイベントなどに取り組む地域人材の拠点として、令和2年11月に「向日市観光交流センターまちてらすMUKO」をオープンした。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
□計画の進捗に影響あり ■計画の進捗に影響なし		
状況を示す写真や資料等		
		
「向日市観光交流センターまちてらすMUKO」オープンチラシ		

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和2年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称： 令和2年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会	
会議等の開催日時： 令和3年2月19日	
(コメントの概要)	
○今後起こりうる他地域での開発の参考となるよう、「新たなまちづくりを考えるにあたっては景観づくりを考慮しながら検討することも必要である」ということが示せるものを資料として残しておくのが良いのではないか。 ○開発が進められている地域については、数十年先の街並みを考えられているかどうかという視点も重要である。今行われている向日市での開発は、これから数十年後に現地の方々に意見を聞くことができることから、都市計画と歴まち双方を上手く繋げ、継続的に関心を持つという点で良い事例になると考える。 ○歴まち計画の前半が終わり、今年度は計画変更も行われた。歴まち計画の後半5年で、特定の地域が開発により変わっていくことに対して、どのような影響・変化があるのかを本協議会で考え、見ていく必要があると考える。 ○旧上田家住宅の整備は、史跡長岡宮跡部分と国登録有形文化財という歴史が重なっており、具体的にそれぞれをどのように顕在化させながら活用していくかという大変興味深い事業であり、全国でも貴重なモデルになる事業だと思われる。 ○向日町において、近現代の向日庵、西向日住宅とその市民文化が、古代の長岡宮跡、中・近世の向日神社などに匹敵する歴史・文化資源となりうる可能性が、特別展「寿岳文章 人と仕事」の社会的反響からも示されたのではないか。	
(今後の対応方針)	
○土地区画整理事業においては、周辺地域の街並みと調和した整備に努めるとともに、今後の街並みの変化について、モニタリングすることも検討してまいりたい。 ○旧上田家住宅の整備については、史跡長岡宮跡部分と国登録有形文化財部分、もしくは双方なのかがわかるような展示説明板を設置し、本市固有の歴史の重層性を感じることができる施設を目指す。	